

誰もが平等な社会へ

市川三郷町立六郷中学校三年 深澤 留衣

私の妹は生まれつき病気をもっています。生まれつきではなく、見えていた目も二歳で見えなくなっていました。それでも妹はたったの二年間、しかも二歳という年齢にもかかわらず、家族のことは手だけで誰かわかる。声だけで判断できるのです。私にはそんなことは二歳ではできなかつたと思います。さらに妹は、頭の回転が速くて、六歳ぐらいのときから、かけ算を言えるようになりました。それにすごく記憶力が優れています。一回会った人のことはほとんど覚えています。妹の生まれつきの病気は一つではありません。いくつかあります。でも、私は何の病気なのか全部はわかりません。普通の子なら歩ける年齢でも、妹は歩けません。なぜなら、身長が伸びず、自分の身体を支えられないからです。だから、常に外では抱っ子をしたり、ベビーカーに乗ったりしています。見た目も普通の子とは少し違います。だけど周りの人はあまり変な目で見ません。普通の子のように見てください。妹に優しくしてくれる先生、仲良くしてくれる友達、妹の周りにはたくさんの良い人たちがいます。

でも、差別をしている人はいます。この世の中には、病気をもっている人や障害をもっている人がたくさんいます。年齢問わず、赤ちゃんも高齢者にもです。そのような人たちに差別をする人がいます。私にはなぜ差別をするのかが理解できません。ただ病気をもってる、障害をもってる、それだけなのです。障害や病気を望んで生まれてくる人はいないはずです。私のように、健康に生まれてきて毎日を過ごしている方が奇跡なんだと私は思うようにしています。だから私は、差別をしている人たちに「自分がその立場だったら差別されてどう思うの、嬉しい気持ちになる人は誰一人いない。」と言いたいです。実際に妹もだけど、病気、障害をもっている人たちはたくさん苦しんでいます。人一倍努力をしています。本人にしかわからない気持ちがあると思いますが、つらいということは目に見えます。それでも明るく振るまおうとする人たちをたくさん見てきました。自分がつらくても私たちには笑顔でいてくれます。私は、そのたびに本当なら自分が笑顔を忘れてはいけない、笑わせてあげたいというふうに思います。健康に過ごしている私たちよりも明るくて元気な人たちがたくさんいます。私が同じ立場だったら、そんなに明るく元気には過ごせないと思います。だから、本当にすごいなって思います。

今の世の中は、障害者とかに冷たいと感じます。病気、障害をもっている人たちが、もっと働きやすく、生活しやすく、外に出やすい環境を作ることが大切だと思います。自分は、病気をもっているから障害をもっているからと諦めてほしくないです。明るく元気に過ごしていれば未来も明るくなると信じて毎日を過ごしてほしいです。だからこそ、私たちの「和」はすごく大切だと思います。私たちにできることは何かあるのか考えていきたいです。

この作文を書いて、やっぱり病気をもっている人も、障害をもっている人も、みんな同じ人間だということを改めて感じました。私たちはほんの少し違うだけで同じなのです。一人一人違うのは当たり前のことです。みんなが自分に自信をもって毎日を過ごしてほしいです。でも、やっぱり差別をする人たちが引っかけます。どう考えても差別をする理由がわかりません。一番つらいのは差別をされている側です。私にはどうしたら差別がなくなるのかわかりません。でも絶対になくなることを願っています。そして、病気、障害をもっている人たちがもっと働きやすく、生活しやすく、外に出やすい環境が未来にはあってほしいです。だってほんの少しだけ違う同じ人間だから、こんなにも生活のしやすさが違うのは悲しいからです。私はこれからも病気や障害をもっている人たちとの関わりを大切にしていきたいし、笑顔にさせたいです。

この世界に生きているみんなに生きる権利があります。そのことを絶対に忘れないで、差別のない社会をつくっていきたいと思います。